

長い引用ですが、読んでください。黄色掛けの部分が同じ言葉のくりかえしです。黄色と黄色のあいだにも注目すると、妻の要求がクレッシェンドするのに合わせて、猟師の心の動揺、海の荒れた様子がクレッシェンドしています。

「漁師とその妻」

「かれいをつりあげたんだが、のろいをかけられた王子だというんで、水にもどしてやった」と話してきかせました。

「水にもどしてやったんなら、そのかわりに、かれいに、何かねがいごとをいえばよかったのに」

「いったい、なにをねがえつていうんだ」するとおかみさんはいました。

「考えてもごらんよ。いつまでもこんなちっぽけな小屋に住むなんて、いやだね。もう一度行って、かれいに家を壺たのんでごらんよ」

漁師はあまり気がすまなかったけれど、海辺へ行きました。

海辺に着いてみると、海はすっかり黄色と緑色になっていました。漁師は水辺へ行ってよびかけました。

ちびちゃん、ちびちゃん、来てくれよ

海の中のかれいさん

うちの女房のイルゼビルときたら

おれのいうこときかないんだ

すると、かれいがあらわれて、いいました。

「そうですか。で、おかみさんは何がおのぞみですか」

「それがなあ、うちのかみさんのいうには、あんたを水にもどしてやったんだから、なにか、ねがいごとをしろつていうんだ。あいつはもう、ほったて小屋に住むのはまっぴらで、ちゃんとした家に住みたいんだつて」すると、かれいはいいました。

「まあ、うちへ帰つてごらんさい。おかみさんののぞみどおりになっていますよ」

漁師はうちへ帰りました。するとおかみさんは、ちゃんとした家の前に立っていて、

「さあ、入つておいで。いい家になったよ」といいました。

・・・・・・・・略・・・・・・・・

「あんた、この家はせますぎるよ。庭も畑も小さすぎるし。わたしや、大きな石のお城に住みたいね。かれいのところへ行つて、お城をつくるようにいつておくれ」

「何をいうんだ、おまえ。かれいはおれたちに、この家をくれたばかりじゃないか。おれは二度と行きたくない。かれいがおこつてしまふぜ」ところがおかみさんは、

「そんなこたあないよ。かれいにはできるんだから。よろこんでつくつてくれるよ。さあ、行つておいで」といいました。

漁師は、重い心で出かけていきました。海辺に着いてみると、水はすっかりむらさき

色と、ねずみ色と、こん色になっていました。

漁師はそこに立って、よびかけました。

ちびちゃん、ちびちゃん、来てくれよ

海の中のかれいさん

うちの女房のイルゼビルときたら

おれのいうときかないんだ

すると、かれいがあらわれていました。

「そうですか。で、おかみさんは、いったい何がおのぞみですか」

「それがなあ、うちのかみさんときたら、石のお城に住みてえなんていうんだ」と、漁師はとても困ったようにいいました。すると、かれいがいいました。

「まあ、うちへ帰ってごらんなさい。おかみさんののぞみどおりになっていますよ」

漁師はうちへ帰りました。おかみさんは大きな城の前に立っていました。

・・・・・・・・略・・・・・・・・

「あんた、さつさど行っておいで、わたしや王さまになりたいんだ」といいました。

漁師は、とても重い心で、出かけていきました。海辺に着いてみると、海は、どんよりくもったねずみ色で、水がわかかえっていました。漁師はそこに立って、よびかけました。

ちびちゃん、ちびちゃん、来てくれよ

海の中のかれいさん

うちの女房のイルゼビルときたら

おれのいうときかないんだ

すると、かれいがあらわれていました。

「そうですか。で、おかみさんは、いったい何がおのぞみですか」

「それがなあ、うちのかみさんときたら、王さまになりてえなんていうんだ」と、漁師はいいました。すると、かれいがいいました。

「まあ、うちへ帰ってごらんなさい。おかみさんののぞみどおりになっていますよ」

漁師はうちへ帰りました。帰ってみるとりつばな宮殿があって、近くまで行ってみると、たくさんの兵隊と、たいこやトランプトを持った楽隊がならんでいました。おかみさんはいええ、大きな金のかんむりをかぶり、金とダイヤモンドの玉座にすわっていました。

・・・・・・・・略・・・・・・・・

漁師は出かけました。歩きながら考えました。（こいつはどうしたっていいことじゃない。皇帝だなんて、あつかますぎる。かれいだってしまいいには、いやんなっちゃうぞ）考え考え、漁師は海辺に来ました。水はまっ黒く、水かさはふえて、海面をつむじ風がふきまくり海はさかまいていました。漁師はそこに立って、よびかけました。

ちびちゃん、ちびちゃん、来てくれよ

海の中のかれいさん

うちの女房のイルゼビルときたら

おれのいうときかないんだ

すると、かれいがあらわれていました。

「そうですか。で、おかみさんは、いったい何がおのぞみですか」

「それがなあ、うちのかみさんときたら、皇帝になりてえなんていうんだ」と、漁師はいいました。すると、かれいがいいました。

「まあ、うちへ帰ってごらんなさい。おかみさんののぞみどおりになっていますよ」

漁師はうちへ帰りました。宮殿に着いてみると、おかみさんは、とても高い玉座にすわっていました。玉座は金でできていて、おかみさんは、二エレも高さのある大きなかみむりをかぶっていました。おかみさんの両がわには、近衛兵が背のじゆんにならんで長い列をつくっていました。とてつもなく大きい巨人から、指ほどの小さいこびとまでいました。

・・・・・・・・略・・・・・・・・

「あんた、たわけたこというんじゃない。皇帝にすることができたんだもの、法王にだつてできるよ。さつさと行ってきな」

漁師は出かけました。けれども、どうにも気がすみません。足が、がくがくします。風ははげしくふきまわっていました。水はにえくりかえっているようです。船は助けをもとめて鉄砲を撃ちあげ、大波の上を、おどるようにはねまわっています。大空のまん中にはほんのちよっぴり青空がのぞいていました。でも両わきは、大嵐のように、まっ赤でした。

漁師はすっかりおじけづきながら、そこに立ってよびかけました。

ちびちゃん、ちびちゃん、来てくれよ

海の中のかれいさん

うちの女房のイルゼビルときたら

おれのいうときかないんだ

すると、かれいがあらわれていました。

「そうですか。で、おかみさんは、いったい何がおのぞみですか」

「それがなあ、うちのかみさんときたら、法王さまになりてえなんていうんだよ」と、漁師がいいました。すると、かれいがいいました。

「まあ、うちへ帰ってごらんなさい。おかみさんののぞみどおりになっていますよ」

漁師は家へ帰りました。

・・・・・・・・略・・・・・・・・

「わたしや神さまになる。すぐにかれいのところへ行け」

そういわれると、漁師はぞつとして、身ぶるいしながら出かけました。外では嵐がふきまくり、木も岩もかたむいています。空はまっ暗で、かみなりが鳴り、いなびかりがしています。海には、黒い大波が山のように高くもりあがり、みんな、白いあわのかんむりをかぶっていました。漁師はよびかけました。

ちびちゃん、ちびちゃん、来ておくれ

海の中のかれいさん

うちの女房のイルゼビルときたら

おれのいうときかないんだ

すると、かれいがあらわれていました。

「そうですか。で、おかみさんは、いったい何がおのぞみですか」

「それがなあ、うちのかみさんときたら、神さまになりてえなんていうんだよ」と、漁師がいました。すると、かれいがいいました。

「うちへ帰ってごらんなさい」

漁師はいそいで帰りました。帰ってみると、おかみさんは、もとのきたない小屋に、きたない身なりで、すわっていました。

そしてふたりは、今でもそこにすわっています。

『語るためのグリム童話1』小澤俊夫監訳／小峰書店

三びきのくま

昔むかし、あるところに、三びきのくまがいました。小さいちっぽけなくまと、中くらのくまと、大きいでつかいくまでした。クマたちは、森の中の一軒家に住んでいました。

くまたちは、それぞれ自分用のおちやわんを持っていました。小さいちっぽけなくまのは、小さいちっぽけなおちやわんで、中くらのくまのは、中くらのくまのは、中くらのくまのは、中くらのくまのは、大きいでつかいくまのは、大きいでつかいおちやわんでした。それから、くまたちは、それぞれ自分用のいすも持っていました。小さいちっぽけなくまのは、小さいちっぽけな床で、中くらのクマのは、中くらのいすで、大きいでつかいくまのは、大きいでつかい床でした。それから、くまたちは、それぞれ自分用のベッドも持っていました。小さいちっぽけなくまのは、小さいちっぽけなベッドで、中くらのくまのは、中くらのベッドで、大きいでつかいくまのは、大きいでつかいベッドでした。

語りの森HP 《外国の昔話》

イギリスの昔話です。三色で三回のくりかえしを示しました。「おちやわん」「いす」「ベッド」の三語が異なるだけで、同じ言葉のくりかえしです。しかも、各色の中の描写も、大中小のくまについて同じ言葉でくりかえしています。

三回のくりかえしも、昔話によく出てきますね。固定性のあらわれです。このことに

ついでには、「昔話の音楽性」の項で改めて考えます。

三びきのチョウ

むかし、あるところに、なかのいい三びきのチョウがいました。赤いチョウに、黄色いチョウに、白いチョウです。

あるお天気のいい日、三びきのチョウは野原で遊んでいるうちに、日が暮れてしまいました。

「はて、たいへんだ」

三びきが困っていると、**向こうのほうに、ちらちらと赤い灯りが見えました。三びきはそこへ行つて、**

「今夜一晩泊めてください」と頼みました。すると中からおばあさんが出てきて、

「赤いチョウだけ泊めてやる。ほかのチョウは泊められん」といいました。

赤いチョウは、

「ほかのチョウを泊められないんなら、私も泊まらない」といって、ほかのチョウといっしょに先へ飛んでいきました。

しばらく行くと、**向こうのほうに黄色い灯りが見えました。三びきが、**

「今夜一晩泊めてください」というと、中からおばあさんが出てきて、

「黄色いチョウだけ泊めてやる。ほかのチョウは泊められん」といいました。

黄色いチョウは、

「ともだちを泊められないんなら、私も泊まらない」といって、ほかのチョウといっしょに先へ行きました。**しばらく行くと、こんどは、白い灯りが見えました。三びきはそ**

こへ行つて、

「今夜一晩泊めてください」と頼みました。すると中からおばあさんが出てきて、

「白いチョウだけ泊めてやる。ほかのチョウは泊められん」といいました。

白いチョウは、

「ともだちを泊められないんなら、私も泊まらない」といいました。

三びきはしかたがないので、木の下で、抱きあって眠ることにしました。

『赤い聞き耳ずきん』水島謙一編 野島出版刊 再話…村上郁

日本の昔話です。これも、三色を比較してみてください。同じ場面は同じ言葉でくりかえしています。